

のびる

水は清く、田の緑に囲まれた田園地帯の大浦校下は、かつては今ある五町のうちの三町、東蚊爪・大浦・木越の集落でなりたっていた。

家々は茅ぶき屋根と大地主の大屋根が混在して寄り添い、道は狭く複雑に入り組み、農業水路が村中のあちらこちらに巡らされ、静かなたたずまいを呈していた。

人々の暮しは、田畑を耕し、牛やニワトリを飼って生計を立てて力強く生きてきた。しかし、一たび梅雨や台風で大雨が降ると、河北潟に近い下流の軟弱な低湿地帯に位置するこれらの集落の村々の堤防は、すぐに決壊し、橋は流され田畑は冠水し、家屋は床上浸水するほどの厳しい生活を余儀なくされていた。

災害から身を守り、村を守ることが、この地に住む人々の使命だったといえよう。

そんな大浦校下の姿も、土地改良事業により徐々に整備され、都市化の波もこの地に押し寄せてきた。人々を悩ませた河川も護岸工事によって流れを変えたり、道路として生まれ変わり、生活環境を一変させた。

古い家屋の取り壊し、水田の埋め立て。変って、相次ぎ家が新築され、湊や木越団地といった住宅団地が誕生。木材団地、県消防学校、県運転免許試験場等の公共施設や工場、企業も次々と誘致され、湊や木越団地の町並は、伸びゆく大浦校下の象徴となっている。

新しくこの地をふるさととして息づく人々は、年とともに増えていく。新しい顔と古い顔の二つの表情を持つ大浦校下。二つの表情の調和がこの町をまた新たに作る。

町中を、自転車に乗って遊ぶ子供たちを見れば、その姿は未来に向かって羽ばたいている。大浦の風土は、この子供たちの表情にのびのびと表われている。

自然と触れあいながら、生まれ育っていく子供たちは、大人になっても水と緑と文化の故郷を誇りに思うであろう。

そして私達大人は、校下の持つ二つの表情を融合させ、この町を発展させると同時に、次の代へと残すべきものを守っていかねばならない。

(東蚊爪町・西道了昌)



61

子供たち

子供たちは無邪気だ。遊ぶ姿にたくましさがいっぱいだ。ホタルやザリガニもたくさんいる豊かな自然に恵まれて、伸び伸びと育っていく。



62

62 かぶっごぎと木ソリを見つけた子供たち
63 今日から楽しい一年生



63



64

64 下校風景

65 木越団地の公園で遊ぶ子供たち



65



66

- 66 社会体育大会の元気な姿
67 ラジオ体操
68 成人式の誓いの言葉
69 成人式の語らい



67



成人式

20歳の門出は新鮮な気持ちであふれている。
若人の限りなき未来は飛躍に満ちて希望の明日を見つめ続けているからだ。そして、生れ育った、ふるさと大浦校下の水と緑と土の香りは、一生涯忘れえぬ心の想いとして、人生に刻み込まれていくだろう。



木越団地

木越町地内の水田を埋め立てて、約880世帯の住宅が県住宅公社の手により、建設された。
 住民の自治、スポーツ、文化活動は多方面に名をはせ、新しい歴史と伝統を積み重ねている。
 その町並は整然とし、活気あふれる若々しい町となっている。



- 70 木越団地町会会館竣工式テープカット
- 71 木越団地町会会館竣工式の一コマ
- 72 木越団地秋のフェスティバル
- 73 木越団地秋のフェスティバル
- 74 大浦校下文化祭での木越団地こぼと鼓笛隊の演奏
- 75 冬の金腐川堤防



78



76



79



77

湊 町

昭和57年に誕生した新しい町。木材集荷場として工場が建ち並び、
 運転免許試験場、消防学校、野鳥観察舎、県警ヘリポート基地など
 相次いで建設され、水田も埋め立てられて変貌をとげている。
 住民の町づくりは盛んで、ふれあいの交流も活発だ。



- 76 浅野川河口の湊町木材貯木場
- 77 湊町木材工場のようす
- 78 湊町にできた河北潟野鳥観察舎
- 79 石川県警ヘリポート基地
- 80 運転免許試験場と宝達山を望む